



平成31年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年11月9日

上場会社名 森下仁丹株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4524 URL <https://www.jintan.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 駒村 純一
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 (氏名) 森田 真司 TEL 06-6761-1131
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績（平成30年4月1日～平成30年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	5,134	△0.5	221	69.0	231	75.9	197	107.0
30年3月期第2四半期	5,158	△2.7	131	11.5	131	9.1	95	13.1

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 542百万円 (340.7%) 30年3月期第2四半期 122百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	48.50	—
30年3月期第2四半期	23.42	—

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	14,446	70.2	10,140	70.2		
30年3月期	14,186	69.1	9,801	69.1		

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 10,140百万円 30年3月期 9,801百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	50.00	—
31年3月期	—	0.00	—	—	—
31年3月期（予想）	—	—	—	37.50	37.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。平成30年3月期の1株当たり期末配当金については、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「—」として記載しております。株式併合後の基準で換算した平成30年3月期の1株当たり年間配当金は50円となります。

3. 平成31年3月期の連結業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,000	1.9	550	0.9	550	△1.8	400	1.5	98.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期2Q	4,150,000株	30年3月期	4,150,000株
② 期末自己株式数	31年3月期2Q	82,465株	30年3月期	82,465株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期2Q	4,067,535株	30年3月期2Q	4,067,883株

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかに回復しております。企業収益は内外需要の底堅さを背景に好調が続く、経常利益は過去最高水準にあります。個人消費は、雇用所得環境の改善が続いていますが、物価上昇による実質所得の伸び悩みを受けて緩やかな持ち直しにとどまっております。消費者物価は、エネルギー価格の上昇に加え、外食など一部サービス価格の上昇を受けて前年比1.0%まで伸びを高めましたが、その後は伸び率が鈍化しております。

当社グループの属する業界も、異業種を含む大手企業の新規参入など更なる競合激化は続いており、当社グループを取り巻く環境は依然として厳しいものとなっております。

このような経済状況のもとで、当社グループは、「伝統と技術と人材力を価値にする」をビジョンとし、引き続き積極的な営業活動を展開しております。しかし、当第2四半期連結累計期間においては、フレーバーカプセルの受託が前年同四半期と比べ増収となりましたが、当社独自の機能性素材であるローズヒップ及びサラシアや機能性表示食品「ヘルスイド®シリーズ」の販売が前年同四半期と比べ減収となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高5,134百万円（前年同四半期比0.5%減）、営業利益221百万円（前年同四半期比69.0%増）、経常利益231百万円（前年同四半期比75.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益197百万円（前年同四半期比107.0%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

① ヘルスケア事業

当セグメントにおきましては、メディケア商品が前年同四半期と比べ増収となりましたが、機能性表示食品「ヘルスイド®シリーズ」が前年同四半期と比べ減収となり、売上高は、3,818百万円と前年同四半期と比べ89百万円の減収となりました。

損益面では、効率的なプロモーション活動等に努めましたが、売上高が低調に推移するなか、セグメント利益は、143百万円と前年同四半期と比べ89百万円の減益となりました。

② カプセル受託事業

当セグメントにおきましては、医薬品カプセルやその他の受託については前年同四半期と比べ減収となりましたが、フレーバーカプセルが前年同四半期と比べ増収となり、売上高は、1,311百万円と前年同四半期と比べ81百万円の増収となりました。

損益面では、効率的な研究開発投資に努めたこともあり、セグメント利益は、78百万円と前年同四半期と比べ129百万円の増益となりました。

③ その他

当セグメントにおきましては、売上高は、4百万円と前年同四半期と比べ14百万円の減収となりました。

損益面では、セグメント損失は、0百万円と前年同四半期と比べ50百万円の増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は5,233百万円となり、前事業年度末に比べ90百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が248百万円、原材料及び貯蔵品が12百万円減少したことによるものであります。固定資産は9,212百万円となり、前事業年度末に比べ351百万円増加いたしました。これは主に投資有価証券が531百万円増加したことによるものであります。

この結果、資産合計は、14,446百万円となり、前事業年度末に比べ260百万円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は2,245百万円となり、前事業年度末に比べ101百万円減少いたしました。これは主に1年内返済予定の長期借入金105百万円、賞与引当金が12百万円減少したことによるものであります。固定負債は2,060百万円となり、前事業年度末に比べ23百万円増加いたしました。これは主に繰延税金負債が150百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、4,305百万円となり、前事業年度末に比べ78百万円減少いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は10,140百万円となり、前事業年度末に比べ338百万円増加いたしました。これは主にその他有価証券評価差額金が346百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は70.2%（前事業年度末は69.1%）となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、1,848百万円と前連結会計年度末と比べ248百万円(11.9%)の減少となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は412百万円(前年同四半期連結累計期間は270百万円の増加)となりました。その主な要因は、税金等調整前四半期純利益231百万円、減価償却費303百万円、仕入債務の増加60百万円などによるものであります。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は231百万円(前年同四半期連結累計期間は117百万円の減少)となりました。その主な要因は、有形固定資産の取得による支出166百万円、無形固定資産の取得による支出31百万円、投資有価証券の取得による支出33百万円などによるものであります。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は429百万円(前年同四半期連結累計期間は388百万円の減少)となりました。その主な要因は、長期借入金の返済による支出226百万円、配当金の支払203百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、平成30年5月11日の「平成30年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,097	1,848
受取手形及び売掛金	1,667	1,694
商品及び製品	621	618
仕掛品	397	475
原材料及び貯蔵品	463	451
その他	88	157
貸倒引当金	△11	△11
流動資産合計	5,324	5,233
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,943	1,873
機械装置及び運搬具（純額）	1,131	1,054
土地	2,217	2,217
建設仮勘定	12	7
その他（純額）	389	354
有形固定資産合計	5,694	5,508
無形固定資産	158	160
投資その他の資産		
投資有価証券	2,946	3,478
その他	61	65
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	3,008	3,543
固定資産合計	8,861	9,212
資産合計	14,186	14,446

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	830	891
1年内返済予定の長期借入金	347	242
未払法人税等	64	71
賞与引当金	198	185
返品調整引当金	58	64
売上割戻引当金	27	25
ポイント引当金	42	45
設備関係支払手形	20	48
その他	759	671
流動負債合計	2,347	2,245
固定負債		
長期借入金	757	636
繰延税金負債	662	812
退職給付に係る負債	569	570
その他	47	41
固定負債合計	2,037	2,060
負債合計	4,384	4,305
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,537	3,537
資本剰余金	963	963
利益剰余金	4,330	4,324
自己株式	△139	△139
株主資本合計	8,692	8,686
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,103	1,450
退職給付に係る調整累計額	4	3
その他の包括利益累計額合計	1,108	1,453
純資産合計	9,801	10,140
負債純資産合計	14,186	14,446

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	5,158	5,134
売上原価	2,405	2,420
売上総利益	2,752	2,714
販売費及び一般管理費	2,620	2,492
営業利益	131	221
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	9	15
その他	1	2
営業外収益合計	11	18
営業外費用		
支払利息	7	4
その他	3	3
営業外費用合計	10	8
経常利益	131	231
特別損失		
投資有価証券評価損	29	—
その他	0	—
特別損失合計	30	—
税金等調整前四半期純利益	101	231
法人税、住民税及び事業税	7	35
法人税等調整額	△1	△1
法人税等合計	6	34
四半期純利益	95	197
親会社株主に帰属する四半期純利益	95	197

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	95	197
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	26	346
退職給付に係る調整額	1	△1
その他の包括利益合計	27	344
四半期包括利益	122	542
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	122	542

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	101	231
減価償却費	305	303
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	22	△0
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	0
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△93	6
賞与引当金の増減額(△は減少)	0	△12
売上割戻引当金の増減額(△は減少)	3	△1
受取利息及び受取配当金	△9	△15
支払利息	7	4
投資有価証券評価損益(△は益)	29	—
売上債権の増減額(△は増加)	73	△26
たな卸資産の増減額(△は増加)	△31	△62
仕入債務の増減額(△は減少)	△0	60
その他	40	△48
小計	449	439
利息及び配当金の受取額	13	15
利息の支払額	△5	△5
法人税等の支払額	△188	△37
営業活動によるキャッシュ・フロー	270	412
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△95	△166
無形固定資産の取得による支出	△20	△31
投資有価証券の取得による支出	△3	△33
貸付金の回収による収入	1	—
その他	△0	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△117	△231
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△236	△226
配当金の支払額	△152	△203
その他	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△388	△429
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△236	△248
現金及び現金同等物の期首残高	2,877	2,097
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,641	1,848

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ヘルスケア 事業	カプセル 受託事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,908	1,229	5,138	19	5,158	—	5,158
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	136	136	△136	—
計	3,908	1,229	5,138	155	5,294	△136	5,158
セグメント利益 又は損失(△)	233	△51	182	△50	131	—	131

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ヘルスケア 事業	カプセル 受託事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,818	1,311	5,130	4	5,134	—	5,134
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	136	136	△136	—
計	3,818	1,311	5,130	140	5,270	△136	5,134
セグメント利益 又は損失(△)	143	78	221	△0	221	—	221

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。